

平成28年度第2回東大和市公民館運営審議会会議録

日 時 平成28年6月23日（木） 午後2時～4時

場 所 中央公民館 視聴覚室

出席者 （委員）10名

（職員）尾又中央公民館長、平野中央公民館事業係長、藤田南街公民館長、佐野狭山公民館長、岩田蔵敷公民館長、蓑田上北台公民館長

欠 席 2名

・【内容】

・審議事項

・①公民館に関わる東大和市の各種計画と具体的な取組

委 員：それでは審議事項①「公民館に関わる東大和市の各種計画と具体的な取組」について、尾又館長ご説明お願い致します。

尾又館長：さて、6月15日南街公民館開館から45周年を迎えました。公民館運営審議会の設置も同じ6月でしたので、やはり、45周年です。つい先日40周年だったと思うのですが、東日本大震災をからめた記念事業の年から早5年が立ってしまいました。東京オリンピックの翌年が50周年ですので、オリンピック年に50周年事業の中身について答申を提出していただくようになります。それも踏まえて他市の周年行事も研究することになるかと思えます。この6月30日から7月3日にかけて日野市公民館が50周年イベントのようです。そろそろ他市の周年行事も気にするような節目かなと思えます。急に参考にしようと思っても、そんなに毎年多くの周年行事があるわけではございません。来年が立川70周年、福生40周年、2018年が町田市40周年、2019年が瑞穂市70周年、2020年が東村山市40周年かと思うのですが、公民館ではなくなったところもございまして行事を行うかどうかは定かではございません。様々考えつつ、当市の事業も考えてまいりたいと思えます。

本日は、公民館に関わる東大和市の各種計画と具体的な取組について、ご審議いただきたいと思えます。事前に配布させていただいておりますが、期間が短く申し訳ございません。一通りご説明させていただきます。資料1「公民館に関わる東大和市の各種計画と具体的な取組」と資料2「公民館に関わる東大和市の各種計画」をご

覧ください。資料1の計画名・目標・実施内容につきましては、表のため簡易に記載してあります。公民館該当個所の全文については、資料2に記載してあります。公民館部分だけでなく、全体をお読みになりたい場合は、HPでご覧ください。資料1は、平成28年度事業の参考に26年度27年度の実施内容を記載してあります。公民館事業につきましては、市の様々な目標に沿って実施されております。

最も上位の目標が「第二次基本構想」で平成14年～33年が実施年です。公民館に関わるのは第4章の1です。この基本施策に基づき「第4次基本計画」に施策の基本方針や成果指標をさだめております。アの活動目標はグループ数を407で維持するのが指標です。

イの実実施計画ですが「実施計画」については、「公共施設等総合管理計画策定」が関わりのある部分です。委員の参加されたワークショップの関係のものです。予算は公民館のものではなく、担当課の計上です。

次に「市長施政方針」については、お読みいただいている通りです。

エの「第4次行政改革大綱・推進計画」については、使用料・手数料の見直しは昨年度予約システムと同時に検討させていただきましたが難しい状況でして、平成30年度に見直しになります。

オの「行政評価」は、毎年度HPで公表させていただいております。「人口ビジョン及び東大和まち・ひと・しごと創生総合戦略」は市長施政方針とだいたい重複していると思います。「公共施設等白書」は「公共施設等総合管理計画」のための基礎資料です。「公共施設等総合管理計画」は「実施計画」で申し上げたとおり、28年度に予算がついており、ワークショップやパブリックコメントの結果を元に作成されます。「パブリックコメント」は公民館でも実施するかどうか調査がきますが、特に該当のものはございません。

「第3次情報推進化計画」については、予約システムが開始されました。「地域防災計画」については、耐震化の整備や施設チェックを行っています。「産業振興基本計画」あたりから、公民館の個々の事業と関わりのあるものになってきております。講座名事業名などが記載されております。「次世代育成計画」は、「子ども・子育て支援事業計画」へ移行しました。公民館では該当項目はございません。

「男女共同参画推進計画」は正字体が平成28年度からの計画内容になっております。「第5次地域福祉計画」「第4期障害福祉計画」「環境基本計画」「緑の基本計画」「第二次生涯学習計画」「子ども読書活

動推進計画」など、該当する講座・事業を記載してあります。各事業の内容については、前回配布の「平成28年度事業計画 平成27年度事業報告」をご覧くださいと思います。メインの事業につきましては、前回ご説明させていただいております。資料2は目を通していただければと思います。

次に資料3、4の市民意識調査の資料を配布させていただきました。資料3が平成23年度、資料4が平成27年度の調査です。23年度は、公民館をほとんど利用しない方が71.2%、27年度は利用したことがないほうが74.4%です。27年度で月に1回以上利用されている方は10%、人口86,000人のうち、8,600人です。それ以外のほうが、77,400人です。

資料5は公共施設の団体利用人数を一覧表にしてみました。ただ、市民体育館・市民会館については、公民館と同様の利用方法としての団体で利用した人数については、調査結果が行政報告に掲載されておられませんので、開館年しかわかりません。平成28年度以降に入っている数字は、国税庁による耐用年数である開館50年の該当年を記載しました。耐用年数は建築物の保存技術の高度化や、法改正により、変更の可能性もありますので建替計画等は未計画のため、耐用年数を過ぎたものは、施設数から引きました。

次のページをご覧ください。市民センター等の施設数が伸びるに従って、総利用人数は増加しております。平成13年度から18年度にかけて落ち込んでいるのは、市民会館が開館した後、利用者が市民会館に流れたことによるものと思われます。公民館は、市民会館開館後、清原地区会館・清原老人福祉館開館後も利用者が減り続けております。以上、説明させていただきましたが、公民館を利用しない方が多いこと、利用者数が減少していることから、新たな利用者の開拓に力を入れる必要性を感じております。様々な計画・目標を叶えつつ、今まで公民館に目を留めなかった方々に振り向いていただき、定例的にご利用いただけるよう、講座や事業を工夫していくことが必要だと思います。職員だけでは、思い及ばない内容について、指針をいただけますようどうぞよろしく願いいたします。

委員：まず委員の皆様、第2回公民館運営審議会会議次第添付資料についてご覧ください。今日のご説明ありましたけれどもアの「今回はこの事業の中身についてのご審議ではなく、全体的に、東大和市の公民館の欠けているものについてご審議いただきたい。」というのが柱の1つで、その次はエの「事業についての見直しが必要だと考えま

す。未利用者にアピールできる事業についてご意見いただけると幸いです。」が2つ目ですね。オの「第3回にも引き続きご審議いただくことも可能だと考えます。」ということで7月21日にも審議いただけるメッセージだと思います。今日皆様のご意見いただくものに関しては、この2本の柱についてこれらの資料をお読みいただいて、ご審議いただければと思います。

委員：この貴重な資料をコピーしていただきまして、大変感謝しております。1つ目のほうは、公民館の欠けている事業についてこの資料を見ながら議論すると、2つ目のほうは未利用者にアピールできる事業については資料6をもとに議論するというところでよろしいのでしょうか。

委員：東大和市の大きい計画の中で公民館の関わる事業について資料1に抜粋し、それに対して平成26年度から公民館がどのように取り組んできたか、平成28年度はこういう計画です、というような資料で、公民館に関わらない事業については載せていないということです。他にいますか。

委員：大変内容が幅広くてわかりにくく、難しかった点があるのですが、公民館に欠けているものを審議して欲しいとのことでしたので。A3のオの公民館のなどの自主グループへの支援とありますが、市民大学等への用紙援助とありますが、自主グループへの具体的な援助というのはどういうものがあるのか。これからどのようなことをやっているのか教えていただけますか。

尾又館長：平成26年度、平成27年度にも書いてありますように、用紙援助・だより掲載が自主グループへの支援となっております。用紙援助というのは公民館で活動しているグループさんが市民の方にもっとこんなことを知ってほしいというときに、記録というかニュースとかそういうものを発行したときに市民の方に配る分の用紙を援助しますよというもので、4月に差し上げております。市民の方に役立つ情報が載せているものに関しては用紙を援助させていただく制度になっています。だよりの掲載ですが、会員募集や公開学習会をやりますというときには原稿をお寄せいただいて、掲載させていただくという支援となっております。

委員：公民館の利用頻度は減っていて、そういうところから新しいサークル・グループ等をつくる場合に対しての援助が必要だと思うのですが、必要な用紙援助はわかりましたが、その程度だと少ないのもう少し踏み込んで別の方法などお考えになった方がいいのではない

かと思いました。

委員：色々な計画に従って必要と思われる公民館の事業をいっぱいやってきたのだけれども、主要な指標が良い方向にっていない、だからどこが足りないのでしょうか、というようなことなののでしょうか。

委員：館色々なことをやってきたのだけれども、グラフにしてみるとどうも上がっていない。それについてはかなり前から工夫してきたけれども、まだ上がらない。これについてアイデアがないだろうか、審議会で別の視点でこういうのも考えたらどうかというのをいただきたいということです。

委員：私が乱暴に言ったことと同じ意味です。

委員：グラフをしっかりと考察する必要があると思うのですよ。この中身について十分な説明を受けていないような気がします。説明できないとするならば、本質や現状をしっかりと理解しなければ、課題も浮かばないし、その課題に対する対策も浮かびません。なぜこのようなグラフになっているのかを極めるのが重要だと思います。グラフの大きくダウンしている原因の1つとして市民会館が開館したということですが、具体的に開館年はいつでその前後ではどうなっているのか、市民会館のほうに奪われたと考えていいのかそれ以外のものも含まれているのかお伺いしたいのですが。

尾又館長：開館年は資料に書いてあります通り平成13年度ですが、開館月まではわかりません。

委員：13年そのものは高く、18年に落ちているということですが、本当に市民会館ができたからなのか。かつダウンの数字もどうなっているのか。もし市民会館のせいならば13年度の開館日までは中央公民館のホールを利用していたということですね。ですから隠れている平成14年度、15年度・・・も落ちているということでしたら中央公民館ホールからハミングホールにその部分が移行したと思います。もう1つ、市民センターは上がっているわけですね。その上がり方は公民館より大きく、この原因は何なのか。市民センターは上がっているのに、公民館は下がっている。公民館の利用者が市民センターに移行しているのではないか。市民センターの数と位置、公民館の数と位置、それから利用年齢層がいったいどうなっているのか、あるいは男女比など。このグラフをもう少し突っ込むべきだと思います。そこから原因がつかめるかもしれない。

市民センターは絶対数が少ないながら増加しているのですよ、つまりここには利用者の高齢化があるのではないかと思います。今まで

公民館を利用していた人が行けなくなって、手近な市民センターや福祉館に移行してしまった。もし年齢だとしたら若年層・現役層を開発しなければならない。最近シルバーなど退職年が65歳以上になりつつある。そういった社会的背景も考えないといけないと思います。ただ公民館事業を一生懸命やっても社会的背景も考えないといけないのではないかという気がします。今課題は何かと聞かれましたらグラフの内容や原因をしっかりと掴む必要があると思います。もし、この部分原因をしっかりと掴むところでご説明ありましたらお願い致します。

尾又館長：委員の皆様は40周年記念誌をお持ちでしょうか。100ページのほうで平成14年度以降の利用者数が書いてあります。だんだん市民会館のほうにシフトしていったのがわかります。また平成18年度以降は地区会館、福祉館は増えております。公民館は5館のまま変わらず地区会館、福祉館の施設は増えております。

委員：関連でなにかあればどうぞ。

委員：昨年あたりから、突発的にこの日に予定をいれたいなど思って、お問合せすると、結構いっぱいになっているのですね。ですから、確かにこれまでこのくらいの利用者がいたのはわかるのですが、1つグループがいろんな変化していつている、例えば小型化だとか思うのです。公民館の稼働率はどうなっているのか。いくら減少していたとしても一定水準を超えてしていたら、他に努力することがあるのではないか。また他市と比較する視点を持たないといけない気がします。私が今求めているのは最初のほうで言った、稼働率の見方で、どの程度余力があるのか、稼働率の数字があるのかお伺いしたいと思います。

尾又館長：平成26年度につきましては、中央は62.88%、南街は70.75%、狭山は47.67%、蔵敷は62.67%、上北は61.31%で、中央・南街・蔵敷・上北は60%から70%になりますのでお部屋を取ろうとしてもなかなか空いていない状態だと思います。しかし年々、狭山公民館は減少してしまして平成27年度では45.15%になり、とても悩ましい状態だとは思っております。ですので、新しい事業にこんなアイデアがあったらというのを言っていただけたらなと思っております。

委員：この稼働率は昼間と夜間トータルですか。

尾又館長：昼間と夜間の平均ですので、昼間はもっと70%より高いと思います。

委員：十分高いので、利用者をどう増やすかを議論するのはなかなか難しいかと思います。

尾又館長：ご意見いただいたのは、狭山公民館のほうに集約してお願い致します。もう1つ最近窓口にいらっしゃった方から、こういうグループさがしているのですが、と聞かれたときにどこの公民館にこういうグループありますよとお教えすると、遠くて行きづらいというようなお話があるのですね。今は歩いて行けるのに範囲があるような高齢の方増えているのだと思うのですが、これからはなごやかサロンでこういうところでこんなことやっていますよというような紹介もしたいと考えております。公民館の利用が増えればよいとだけ思っているのではなく、市民の方が楽しく暮らせるようにと考えております。

委員：公民館を利用した市民がいかにか公民館を利用して、色んなことを学んだ、コミュニケーションがとれたなど、そういう効果が大切だと思います。ただ単に利用率をあげるのではなく、いろんな恩恵を重点的に取り組むことが、公民館運営審議会委員の課題だと思います。

委員：おっしゃったことに同感です。原因をしっかりと掴んで、課題を明らかにしていくことが大切だと思います。ですので、稼働率や空席率をもっと確認するべきかと思います。平日昼間は部屋の稼働率としては高い、ところが指標を利用者数に限っているのですね、様々な指標がある中で、とりあえずわかりやすいから人数に置いているわけで、我々がこれに対して何かを提案しないといけないわけですね。そういう立場にいるときにもう少し原因を明らかにしないといけないのです。

続きで質問なのですが各館で多少差があるにしろ一定の数字は出ているのですが、人数は果たしてどうなっているのか、ここのはどうなのでしょう。例えば、30人定員の部屋に20人もしくは5人しか使っていないとか。予約率は大きく変わっていないのに、利用人数は減っているとはそういうことでしょうか。サークルの小型化が起こっているその原因は何かという推測になってきますから。グラフから隠されているものを抉り出してほしいのです。創造して具体的な施策の中で提案して、年齢が影響しているのであれば年齢に対して具体的な施策を立て、提案が可能になってくる。その手前のところを今明らかにしたと思っているのです。

尾又館長：40周年記念誌に平成14年度から23年度までの利用件数が出ています。1万6千から1万7千をちょっと超えるかというぐらいで、

件数は減っておりません。先ほど委員がおっしゃった通りグループの小型化が進み、会員数が減っているということですね。このことは皆様の共通認識にもなっているのかと思います。

委員：男女ではどうですか。

尾又館長：見ていると男性が増えている気がします。

委員：定年になった団塊の世代が増えてきたのでしょうか。

委員：やはり公民館としてもっと市民に利用してもらうためにも、新しい1つのサークルの立ち上げに関して、もう少し援助するという考えを示してもらいたいです。

委員：どれほど支援できるのか、公民館から新しいグループが立ち上げにアドバイスをいただけたらという意見ですね。

委員：そうですね。金銭面の援助ではなくて、アドバイスとか手伝うとかあるとおもうのです。

尾又館長：第二次基本構想に基づきまして、公民館の計画の指標として定期利用グループの維持とありますが、維持するには利用者が減っていますので大変な中で講座を組んでいるのです。その講座の中で、なるべくグループを作っていこうというのが、一番の目標となっています。講座が終わったあとグループになるように全公民館では半年間は支援します。講座の代表者、会費、講師を決めるということには半年間は支援しているのです。紙面には書いておりませんでした、講座では支援させていただいております。

また、男女共同参画推進は女性のための計画ではなくて、男性も市の中でイキイキできるように、どうやったら参加できるのか、深く工夫しながら講座を組んでおります。平成28年度から15番ができて、男性の地域活動への促進がはっきりと文章化されました。そちらのほうのも頭に入れながら講座を組んでいます。そういうのには、男性の方から、こういう講座に出たいというような意見をいただきたいと考えております。

委員：グループ維持に具体的な数字が上がっているわけですね。それに対しては一定程度効果が出ているということでしょうか。私がそこから見えてくる課題は、部屋の数と利用の程度のマッチングがあるのではないかと思います。部屋の稼働率は一定程度あっても、空席率や利用者数で見ていくと満たない。仮説を立てるとすればもう少し細かい縦割りをして、大きい部屋を区切って使えば利用者率も上がるのではないのでしょうか。というような、もう少し工夫の余地があるのではないのでしょうか。

委員：五館合同交流会でも利用者数の減少が議題になっていまして、こんなに様々な魅力ある事業もやっているのですが、この前の五館合同交流会で話題になったのが、国立の公民館のパンフレットで、すごくわかりやすく公民館がどういうところかということが知れるパンフレットでとても惹かれました。五館合同交流会の人と公運審と職員と公民館の人と一緒に動けるツールとして、パンフレットづくりをまずやってみたらどうかと思いました。

もう1つ、公民館の保育者をさせてもらっているのですが、各館保育付き講座に参加している人を見て最近感じていることは、リピーターの数が増えてきているということです。一人だったり、孤独だったり、生きにくかったりするひとたちにもっと公民館に歩きてもらえるような、何か一緒に来てもらえたらいいなと思いました。

委員：国立の方はHPでも動画が見られました。初めて公民館を知る人には惹かれるものがありましたよね。プロが作ったものというのにはやはり刺激があるのですかね。

委員：公運審のこの場にいただけでは、市内全体ではどういう計画があつてこの中で公民館がどういう位置づけになっているのかわかっていなかったなと感じました。なので、このような資料をいただいて、色んなことが見えてきた気がします。その中で1つ、広報面で若い世代は新聞を取っていないのかもしれない。10年後を視野に入れて生涯学習計画を立てている中では、広報のあり方を考えなければならぬと出ています。

ここを充実させていくには、今出している誌面のあり方を検討しなければならないし、HPの方も活用しなければならないのかと思います。公民館に来ていない人に情報を伝えるということはもっと考えていかないといけないことだと考えております。また、公民館を超えたところとの連携も今後とても大事になっていくかと思っています。今は市の計画に沿って縦割りで連携しにくいのですが、どう連携していくか考えるのも大切だと思います。皆様から意見を頂きたいです。

委員：皆様からのご意見を聞きますと、グラフの数字が下がっている原因について掘り下げる必要があるという意見が多かったのですね。上がっている市民センターではどのような取り組みがあつたのか、それが公民館でもできるようなことなのか。市民センターにとられてしまったアイディアはなんなのか、考える必要があると思います。本当に市民会館が出来たから減ってしまったのか、他に大きく変わ

ったことがあるのか調べられるならば調べてみたいと思いました。また、大きく下がったものが一旦落ち着いたのは、市民会館の使われ方が変わったのか。このグラフから、上がっているものに対しても原因の追及を行った方がいいと思います。人口のグラフは変わらないにしても年齢のグラフは変わっているわけですよね、年齢層の中で公民館がどのくらい使われているのかということになると、老人福祉館がむくむくとでてきているわけです。居心地がいい、ここ行ってみたいというようにもう少し工夫ができるのかと思います。数字が減っているのを増やそうとやっていくより、こういう理由だからこういう対策でやっていきますよ、減り続けることはこうやって止めたいのですよというようなアイデアもあっていいのかなと思います。

尾又館長：グラフの方で見ていくと、人口の上がりはいささか小さいですが、数字で見ると大きく上がり続けているのです。ですので、人口は伸びているのに、公民館の利用者は減少しているということですね。

委員：人口の年齢層はどうなっているのかということで、高齢の方が増えているのか、若年層が引っ越してきて増えているのかが大事になってくるかと思っています。公民館利用者をどこに向けるかということ、層を意識しながらアイデアを出す必要があると思います。

委員：公民館だけを考えると、大幅に利用者は増えないと思います。増えなくても気にすることなくて、量より質の時代になっているのかと思います。設備の改修、研修、イベント等の質の向上を図るということをやっていると。なので、利用者が減ったからといってそんなに悲観的になることではないのかなと思います。

委員：私は公民館の活動の中で親子サロンをやっていたのですが、最初のころは応募すると何十組も来たのですが、最近はかなり減りました。その理由を聞いてみたら、SNSですぐに繋がれて、公民館が集まる場所ではなくなっているということを感じました。自分の満足できる場所が多様化してしまったことも、減少した原因かなと感じました。

委員：狭山公民館が減っていることが気になります。湖畔や狭山では高齢化が進んでいることが原因の1つだと思います。また、公民館自体どういう事業が注目されているのかということも見極めなければいけないのかなと思います。歴史なのか、環境問題なのか・・・そういう話題を取り入れたら、人が集まるのだろうか全国の事例を見極めて研究していく必要があるかと思っています。

それから、こうみんかんだよりなのですが、毎回見ていると同じようなパターンの気がします。大きい文字とか、カラーにするとか、若い人にも見てもらえるような、大胆な誌面作りも研究する力をつけていただきたいと思います。

先ほど館長もおっしゃっていたサロンは年間2万人ぐらいが利用しているそうなのですね。色んな場が出てきて従前であれば、公民館で活動していたところが色んな場所が展開されてきているのですね。そんなことも影響してきているので、一概に公民館活動がつまらなくなったということに捉えなくてもいいのかなと思います。

委員：資料3と4の円グラフなのですが、ほとんど利用しないが70%をこえているわけですね。ものすごい大きな数が公民館を利用していないわけですよ。ですので、この原因もしっかり追及しなければならないのです。なぜ利用しないかもアンケートではとっていないのですか。

尾又館長：全庁の意識調査でして、その理由までは採っていません。

委員：公民館を利用する予備軍に、公民館を理解してもらえて活動を広げてもらえればいいかなと思っております。自治会の人にDVDなどを見てもらって、知ってもらえる人を増やしていくことも必要かと思えます。

・②平成28年度重点目標について

尾又館長：昨年度、重点目標としてあげられていて、事業計画に記載されていない事業も、具体策を説明してほしいとの要望をいただきました。資料6を説明させていただきます。まず、重点目標の(1)利用しやすい公民館とするためにアの施設や備品の計画的な整備について平野係長に説明をお願いします。

職員平野：各館ともに修繕が必要なところから、計画的に整備をしていきたいと思っております。予算の都合上、優先順位の高いところから行っていきます。中央公民館の照明につきましても、予算が伴うためなかなか難しいかと思っております。長期的に考えております。

尾又館長：次にイのこうみんかんだよりリニューアルについてですが、佐野館長に説明をお願いします。

佐野館長：担当者会議を定期的実施する、他市の紙面を研究する、各館のイベント等でアンケートをとり、普段公民館を利用していない市民からも意見を集める、H28年度紙面でテストを実施する、H29年秋に予算見積もりし、H30年度予算に反映させる等ございます。

尾又館長：ここからは一行ずつなので、私のほうで説明させていただきます。
次にウの事業のインターネットによる PR についてですが、HP カレンダーに漏れのないよう事業を掲載する。エの施設予約システムサポートについてですが、窓口・電話での相談に対応することと、電子公印についても研究したいところです。

(3) 市民の主体的な学習のためにのうち、カのグループ活動の記録について保存の必要性を周知は、チラシ・ポスターで周知します。
今回のこの表にないものにつきましては、重点目標裏の「3 平成28年度の公民館運営を踏まえた公民館事業計画」該当項目に丸印をつけてあります。

また、前回第1回でお配りした平成28年の事業計画 平成27年度事業報告の表にまとめられております。

委員：これについてなにかご質問等ございますか。

委員：安心安全のためにも、重点的に行っていただきたいと思います。各公民館の和室の畳の張替えだとか。アからカまでやっていただけたら、必然的に公民館の利用者や稼働率が上がるのかと期待しています。できるだけ早くお願いいたします。

委員：こうみんかんだよりのリニューアルですが、H30年度では遅いので、できるだけ早くにできないのですか。

職員平野：今年度、普段公民館を利用していない方が来られるようなイベントのときにアンケートをとってきたいと思うのですが、来年の予算を決める10月には間に合わないようなので、難しいかなとおもいます。

委員：どのような内容のアンケートですか。

職員平野：各市からこうみんかんだよりをいただいているので、それを市民の方に見ていただいて、こういうのが見やすいねというようなアンケートをとろうかなと考えております。

委員：アンケートを、公民館を利用していない方に見ていただきたいとおっしゃっていましたが。具体的には。

職員平野：各館のこうみんかんまつりや、今年は地域デビューパーティーが産業まつりと重なっておりますので、そうすると普段利用していないかたでも公民館にきてくれたりするるので、色んな人が集まる場面でアンケートをとっていききたいと考えております。

委員：あわせて地区館だよりもどういう風の違いを出していくのか、こうみんかんだよりに書いていることをまた載せるだけではなくて、その地区の特色を出すことを考えていただきたいです。